

乳頭温泉郷、奥鬼怒温泉郷、尻焼温泉、夏油温泉など紅葉の秘湯

旅行読売

2014年10月1日発行 毎月1日・11日発行
2014年6月29日第3種郵便物認可 送料560円

オトナの旅の道しるべ

湯けむりにかすむ

紅葉の秘湯

特別付録

群馬の名湯
四万・沢渡・六合
温泉郷
パスポート

特別公開 秘宝と秘仏

この秋行きたい京都

56億人が乗った

東海道新幹線開業50年

17音の たより



黛まどか



まゆずみ・まどか

俳人。2002年「京都の恋」で第2回山本健吉文学賞受賞。オペラ「万葉集」「滝の白糸」(作曲:いづれも千住明)の台本執筆など俳句の枠を超えて幅広く活躍。最新刊のエッセイ集「うた、ひとひら」(新日本出版社)が好評発売中。

スペインのハボンさん③

「俳句と合唱でつなぐ日西文化交流」が、今年初夏にスペインのリア・デル・リオ市で開催されることになった。俳句では市の図書館主催で、2日間に亘ってシンポジウムが開かれ、セビーリヤ大学のロドリゲス教授等と共に参加した。2日目はスペインの俳句愛好家やハボンさん等と共に吟行会も行った。

翌日、コリア市の隣町、セビーリヤのアルカサル宮殿で日西合同の合唱祭が催された。セビーリヤは、支倉常長率いる使節団に同行した宣教師ソテロの出身地。支倉一行はアルカサル宮殿に宿泊して交渉に備えた。宮殿の中庭には仮設ステージが組み立てられ、仙台の合唱団「萩」、ニューヨークの合唱団「TOMO」、そして

地元の合唱団「コロ・サンタ・マリア」が日本とスペインの歌を共に歌った。「荒城の月」が合唱されると、アルカサル宮殿のかつての栄華が偲ばれ、えも言われぬ感動に包まれた。歌と歌の間には、石巻から招待された被災者が自作を含む被災者の俳句を朗読した。

幾千の魂に別れし白夜かな

津波よ津波よ私は鳥になりたい

聴衆から嘆息が漏れ、最後は喝采が湧き起った。やがて舞台の真正面に美しい三日月が上がった。伊達政宗が愛し、兜の前立にあしらった三日月である。月を見た瞬間、私はこの交流が祝福されていることを確信

した。

その夜から3日間、私たちはコリア市のハボンさんの家に滞在した。お互いにほとんど言葉は解さないので、滞在中、笑い声が絶えることはなかった。実は今、日本の遺伝子研究チームがハボンさんたちのDNA鑑定を行っている。コリアを離れる朝、私がお世話になったハボン家のお母さんが血液採取をした腕を指して言った。「DNAなんて関係ないわ!」。「コリアは私の第二のふるさとなりました」。帰国してすぐにメールを送ると、ハボンさん達から次々に返信が届いた。「私たちは真の家族になったよね!」。

合唱の古城に月を湧かしをり

イラスト 上原由祈子